

■竹田のかんがい用水群について・・・

竹田のかんがい用水群

～でこぼこ・かちかちで生きるイロイロ～ ※1

(1) 申請の概要

申請施設は、大分県竹田市に位置し、^{おおのがわ}大野川（流域面積 1,465 km²、長さ 107 km）上流の中山間部の水田をかんがいする**大小 21 本の用水路群**である。これらの用水路は、1663 年から 1924 年にかけて築造され、現在も 2,562 ha の水田に用水を供給する。竹田では、豊富な水資源を活かして、古くから稲作が行われてきた。しかし、竹田は中山間地であって、起伏に富む地形のため、かんがいには隧道や水路橋など高度な水利技術が求められた。また、平野部は河川沿いにわずかな面積で点々とあるため、数多くの取水堰、用水路、分土工が必要であった。最も古い^{きぼるいろ}城原井路（1663 年築造、幹線水路 7.7 km）は、多数の支線水路とあわせた総延長が約 130 km であり、広域に点在する水田へ用水を供給するため、約 1,300 の分水箇所がある。また、幹線用水路の下流部には、かつて高台から余水を放出して台地底部の水田に用水を供給する仕組み（^{らくもん}「落門の滝」（国・登録記念物））があった。^{はくすいいろ}白水井路（1900 年築造、幹線水路 8.3 km）や^{ふじおおい}富士緒井路（1914 年築造、幹線水路 14.2 km）では、隧道区間がそれぞれ 7.1 km と 11.7 km にもなる。また、総延長約 175 km の^{めいせいいろ}明正井路（1924 年築造）には 17 基の水路橋がある。特に、6 連アーチ橋は国内最大規模の石造水路橋である。このように、現存する竹田の用水群は、中山間地における水田開発の苦労と農業水利の発展の歴史を物語る貴重な施設といえる。

(2) 施設名称

竹田のかんがい用水群（頭首工及び水路）

(3) 施設の管理者

城原井路土地改良区、荻西部土地改良区、竹田市土地改良区、白水井路土地改良区、朝地町土地改良区、富士緒井路土地改良区、明正土地改良区、荻柏原土地改良区等

(4) 申請者

竹田市世界かんがい施設遺産登録推進実行委員会 ※2
会長 土居 昌弘（竹田市長）

※1

「でこぼこ」とは・・・農地の多くは中山間地で急傾斜地にあり、条件不利地を指す

「かちかち」とは・・・阿蘇山の火砕流堆積物で構成された火山灰土壌を指す

「イロイロ」とは・・・井路を指す

※2

令和6年7月10日に設立。実行委員会では「登録事業の達成」はもとより、登録以降を見据えて「教育学習」「観光・農業」「情報発信」「その他事業推進に必要な事項」について、令和6年度より地元の土地改良区等や関係機関と連携・協議をし、その推進を図っている。

認定登録以降については仮称「竹田市世界かんがい施設遺産推進協議会」として新たに発足予定。